

第3回旧陸軍歩兵第44連隊跡地保存活用検討委員会

1. 開催日

令和元年10月8日（火）

2. 意見抜粋

【議事1 資料収集方法について】

- ・他の公的な文化施設における近代史との関係性と44連隊跡地が何を目的としていくのかということを整理する必要がある。
- ・先の話しかもしれないが、高知県立歴史民俗資料館がこの役を担うとしても、人の配置問題や岡豊にある施設と朝倉にある建物の管理問題など、クリアすべき課題は多いと感じている。
- ・44連隊に特化して資料を集めることから始め、他の資料に広がっていく方が良いのではないかと。

【議事2 旧陸軍歩兵第44連隊関連施設の活用について】

- ・高知大学構内に存在する池の作庭時期について、説明を加えた方がいいのではないかと。
- ・見学コース案にある徒歩20分や40分は長いのではないかと。
- ・44連隊の歴史を説明した解説板を設置するべきである。
- ・44連隊だけではなく、その他の部隊についても触れ、軍隊制度を整理する必要がある。
- ・満州からの引揚者の聞き取りで、中支から引揚げた人はハチと遊んだと証言していたが、そのような記憶がある方がまだ存命しているのではないかと。
- ・高知県立歴史民俗資料館では、半日のまほろばウォークを開催しているので、徒歩での40分や1時間半は大丈夫だと思う。

【議事3 管理運営方法について】

- ・大和ミュージアムでは、資料の収集保存や研究・展示を担当する学芸部門については、呉市が直営で行っている。
- ・高知県の場合、管理部門と学芸部門が指定管理と行政の直営と分けられると一体的な活用が難しいと言われているので、できたら全面的に指定管理なのか、あるいは全面的に直営なのか、一本化が望ましい。

- ・指定管理者の問題については不備や弊害があると言われているが、高知県の県立施設では指定管理者制度が上手く機能している。
- ・直営というのはなかなか難しく、全面的な指定管理者にしたうえで、公が責任を持つ整備を行う方が良いのではないか。
- ・戦争に関することであり、いろいろな考えの方がいるので、公から離れたところにある団体が、公的な部分と調整しながら歴史を伝えていくことが良いのではないか。
- ・館外活動部門も専門性が背景になくはならず、学芸部門と一体化した活動が良質なサービスを提供することに繋がるのではないか。
- ・施設の性格上、観覧料を取るとするのは違和感がある。
- ・観覧料は無料の方が、教育的な観点から考えても良いのではないかと思う。
- ・戦争を知らない人が多いので、無料化で対応した方がより知っていただける機会が多くなるのではないか。
- ・高知大学と連携して、講堂と弾薬庫を大学教育の場でも活用していただけるような在り方を模索してもらえればと思う。

【議事4 概算費用及び保存修理のスケジュールについて】

- ・令和2年ぐらいから文化庁の方に出向いて、国の登録有形文化財に向けて準備する必要がある。

【議事5 施設の整備方針（案）について】

- ・県民挙げての戦争学習が必要だろうと思うが、県内の小中学生を中心としたという表現の場合、学校教育における問題のみとなるのではないか。
- ・歴史の中に「思い」という言葉が出てくるのは、違和感がある。
- ・近代から昭和の歴史という言葉の定義を詰めておいた方が良い。
- ・個人個人の記憶を記録して、後世に引き継ぐことは大切なことだと思う。
- ・戦争をいかに伝えるか非常に難しいが、個人個人の思いも受け止めながら資料を収集していくということが、今急がれるのではないか。